

第3回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成26年7月18日(金)午後2時00分～

委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります委員の半数以上の出席要件を満たしておりますので、ただいまより第3回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議題1「平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」、議題2「平成27年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点でございます。

それでは、本日の資料について、事務局より説明させていただきます。事務局、お願いいたします。

事務局

それでは、本日の資料についてご説明いたします。

まず、「平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。

次に、サイドテーブルをご覧ください。そちらには、平成

27年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書と特別支援教育関係教科用図書見本が展示してあります。平成27年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

以上、資料の説明を終わります。

委員長 それでは、資料等について何か質問はございますでしょうか。

各委員 ありません。

委員長 では、ないようですので議事に入ります。

本日の次第をご覧ください。まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。

私とほかに、吉田葉子委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

吉田（葉）委員 結構です。

委員長 では、よろしく願いいたします。

それでは、議題1「平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」審議してまいります。

事務局より資料について説明していただきます。事務局、よろしく願いいたします。

事務局 資料を説明させていただく前に、第1回審議委員会から本日のまでの調査研究の流れについて、まず説明させていただきます。今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に

規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものがございます。現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数の多いもので、且つ発行者が平成27年度においても引き続き当該図書の発行供給を予定しているものを文部科学省初等中等教育局教科書課がまとめました「平成27年度用一般図書一覧」というものがございます。これにつきましては、第1回審議委員会の際に皆様にはお配りさせていただきました。

この一覧に載っている図書を展示いたしました教科用図書研究会が、5月12日から16日まで県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。この研究会におきまして、白浜養護学校と特別支援学級の先生方が実際に展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定いたしまして調査研究を行いました。その結果、平成27年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料をご説明させていただきます。お手元の「平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」をご覧ください。

1ページをお開きいただき、一覧表の一番上のところをご覧ください。この一覧表は、附則第9条による図書を5つに分けて表記してあります。

まず1つ目は、「新」の文字を記載したものでございます。これは今回調査研究をした結果、新たに教科書としてふさわしいとして出された新規図書でございます。2つ目は、の記号を記載したものでございますが、これは昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。3つ目は、の記号を記載したものでございます。これは昨年度採択されました

が、今年度、発行者による供給が困難となった図書でございます。4つ目は、 の記号でございます。これは発行者による供給が一時困難となったものが、今年度再び可能となった図書でございます。最後5つ目は、無印のものでございます。これは昨年度採択され、本年度も教科書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、14ページから16ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にして資料1としてお示しさせていただきましたので、こちらも参考になさってください。

続きまして、12ページをご覧ください。一覧表最後、No. 9、英語の欄の下のところでございますが、今お話をいたしました一般図書のほかに、平成27年度使用小学校用教科用図書、平成27年度使用中学校用教科用図書、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書がございます。なお、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書につきましては、資料2として17ページから18ページにお示しいたしました。これは第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成27年度使用）」をお渡しいたしました。この中で知的障がい者用として挙げられている図書でございます。この本はいわゆる 印本と呼ばれているものでございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、19ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 ただいま資料について説明がございました。資料等につきまして、何か質問はございますでしょうか。

各委員 ありません。

委員長 それでは、ないようですので議事に入りたいと思います。

 新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場になっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

 それでは、これから審議してまいります。審議の進行について何か意見はございますでしょうか。上原委員。

上原委員 今回、各学校で調査研究をした結果、教科書にふさわしいものとして新規図書や複数の種目で使いたいという図書が数多く出されております。特別支援学校や支援学級では、児童生徒の実態がさまざまであり、一般図書を教科書として使うニーズが高いと感じております。本校の調査の様子を見ましても、児童一人ひとりの実態を踏まえて精査しておりましたので、幅広く決めていく必要があると思います。よろしく願いします。

委員長 ほかにございますでしょうか。倉委員。

倉委員 私も同じように考えます。附則第9条によって教科書として使用できる一般図書については、それぞれの児童生徒の特徴や発達段階に応じて学校が精査した本と考えます。私もできるだけ採択の幅を広く用意してあげることが大切ではないかと感じております。

委員長 ほかに、本橋委員。

本橋委員 私も、今ご意見がありましたことに同感でございます。1つの本に1つの種目というのではなくて、別の種目で使用するということも十分に考えられることですから、複数の種目で使用希望の出ている図書についても、できる限り希望したものを使えるような方向で審議をしていくのがいいのではないかと思います。

ます。よろしく申し上げます。

委員長 ほかに意見はございますでしょうか。

それでは、ただいまのご意見を受けまして、各学校から希望が出ているものについて、教科書として使用できる方向で考えていくこと、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が上がっている図書について審議していくということによろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 では、そのようにさせていただきます。

「調査書まとめ」の印で言いますと「新」と書かれた新規図書、そして、の印がついている複数種目で希望がある図書についてのご意見を伺いたいと思います。No.1の国語・書写からNo.7の家庭・職業家庭までの種目に入っております。これらをまとめて審議してよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、新規図書と複数種目で希望がある図書についてご意見を伺いたいと思います。よろしくお願ひいたします。

前川委員。

前川委員 私は、国語・書写の新規図書で、三省堂の「こどもことは絵じてん」について述べさせていただきます。

この辞典なんですけれども、児童にとってとても親しみやすい絵を使い、文も短く、わかりやすく、読みやすいものとなっています。文字が苦手な児童にも引きやすくなっています。

例えば「酸っぱい」という言葉を引くと、188ページに載

っています。レモンを食べたときのような味という意味と例文が載っています。すると、そこにはさらに14ページへという指示があります。14ページを見てみますと、味について書かれています。味には辛い、酸っぱい、苦い、甘いなどがあり、では、レモンはどのような味がするのかと、今度は逆に辞典が使う児童に投げかけてきます。そこで、児童は酸っぱいと答えます。

このように、「酸っぱい」という1つの文字を、1つの言葉を調べることで意味や使い方がわかるとともに、辞典と会話をしているような気持ちにさせてくれる、児童が興味や関心を持てる辞典だと思いました。

委員長 国語・書写の「こどもことば絵じてん」について話がありましたが、これについて、天利委員。

天利委員 「こどもことば絵じてん」なんですけれども、資料3に留意事項があると思うんですけれども、そのところには価格についても述べられています。一応教科書として扱うので、無償で配布されるというところについては、価格もやはり考慮しなきゃいけないんだろうなと思っているんですが、この本だけが3800円というかなり高額な値段になっています。今までは高くても2000円台ぐらいのものだったと思うんです。

他市では採択されているということは聞いているんですが、藤沢としてもこの値段でいいのかというのは、ちょっと私自身は疑問に思いますが、ただ、内容量とか、どうしても言葉だけでは理解できない子どもたちが絵を必要としているということから考えてみて、いろいろ悩んだ末によいのではないかという思いがあります。一応3800円という値段ではありますけれども、全ての教科書がこの値段というわけではないので、この本として広く長く使ってもらえればいいのかと思いました。

委員長 「こどもことば絵じてん」について、何かほかにございますでしょうか。高平委員。

高平委員 今も意見がありましたとおり、国語だけにかかわらず、さまざまな教科の場面で使うことができると思います。その1つの言葉から次の言葉へと広がっていくところがとても工夫されていていいなと思いました。

ちょっと大きくて重いのが、使う側、特に小さいお子さんにとっては大変かなというところがありましたけれども、国語だけにかかわらず、いろいろな教科で使うにはとてもいいかなと思いました。

委員長 「こどもことば絵じてん」については、ほかによろしいでしょうか。

では、ほかの図書についてありますでしょうか。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 国語・書写のところで、グランママ社の「ふわふわ、ぼかぼか」という新規図書についてです。

内容的には、「かたい」、「やわらかい」、「軽い」、「重い」、「熱い」、「冷たい」など、手や肌とか体で感じる感覚を、「くねくね」、「さらさら」、「べちゃべちゃ」、「ぬくぬく」、「ぶるぶる」などの擬音語で紹介したもので、言葉と感覚の世界をリズムカルにつないだ絵本です。楽しみながら繰り返し読むことで、視覚的、また聴覚的に擬音語のあらわす意味や感覚を身につけることができる内容ではないかなと思いました。

また、絵の質感もすごくやわらかく立体的でして、以前、特別支援学校で勤務した経験から言いましても、毛糸のふわふわ感とか、ワニの肌のざらざら感とか、冷たい水のひんやり感と

か、そういった質感をリアルにあらわした絵には興味を引かれる児童も大変多くて、年間を通して親しみながら学習に取り組めるのではないかなと考えます。

委員長 国語・書写についてたくさん本がありますので、こちらのほうを先に続けて審議したいと思います。

国語・書写でほかにございますでしょうか。吉田日登美委員。

吉田（日）委員 私は、子どもたち一人一人が求めているものは違う、必要としているものも違うだろうと考えて、その違いを大事にして、個別指導を通して少しでも彼らの気持ちの安定と日常生活に役立つようにと考えて教科書を見ました。

今からお話しする本は2冊なんですが、まず1冊目は子どもたちの好きな乗り物、もう1冊は動物が出てくる本です。どちらも読み物として紹介されていますが、視覚からも確実に訴えてくる本です。子どもたちの中には、物を捉えるとき、言葉から入る子どもと形から入る子どもがいますので、どちらもとてもいいのではないかなと思います。

まず1冊目、小峰書店の「東京パノラマたんけん」です。これは、飛行船に乗って東京上空から地上を細かく丁寧に見ています。まるで自分が鳥になったようで、子どもたちの喜ぶ顔が目に見えます。東京の町が一目でわかり、ビルの名前や橋の名前など、東京を身近に感じ、あそこに行ってみたいなと思うようなつくりになっております。見開きのページもうまく活用し、東京駅や羽田空港などわかりやすく、東京駅から発車する電車が描いてあったり、細かい心遣いができております。乗り物の好きな子どもたちにとってみるとたまらないなとか、ついつい見てしまう、そんな本ではないでしょうか。

この本は、昨年度地図として採択されておりますが、子どもたちの興味関心を大事にする意味においても、今回もぜひ採択

していただきたいなと思います。

もう1冊、福音館の「世界傑作絵本シリーズ てぶくろ」についてお話をしたいと思います。「てぶくろ」という絵本は、小さなネズミから大きな熊まで7匹の生き物が手袋の中に住むというウクライナの民話です。表紙の絵や中の絵も親しみやすく、おじいさんが落とした手袋も本当に暖かそうに描かれておりました。また、怖い動物であるオオカミまでも登場しますが、動物たちはオオカミにも優しく、温かく迎えてくれます。そして、狭いけれども、暖かい手袋、まるで優しい人のぬくもりのようです。児童がこの本の絵を見たり読んだりすることで、動物同士の触れ合いや暖かさ、また、人のぬくもりを感じることができるのではないのでしょうか。実際に教科書として使用することで、友達の話の接し方など身につくと思います。最後に手袋はおじいさんのもとへ戻りますが、友達との信頼関係は残るのではないのでしょうか。そういうお話だと思います。とてもよい本だと思いますので、採択よろしく願いいたします。

委員長 今3冊、「ふわふわ、ぼかぼか」、「東京パノラマたんけん」、「てぶくろ」についてありましたが、この3冊で何かほかにございますでしょうか。高平委員。

高平委員 私も「てぶくろ」という絵本についてすごく興味を持ちました。今おっしゃったように、小さい生き物、ネズミ、カエルと続きまして、だんだんとオオカミ、イノシシ、熊と、どんどん大きな動物が出てきます。普通、その動物さんたちと出会うと、ええっ、食べられちゃうの、こんなに大きいのがみんな入れるのと子どもたちは思うと思うんです。ただ、みんな工夫し合っただけで狭い手袋の中にどうぞどうぞと迎え入れる優しさと、みんなが暖かい手袋の中で過ごす様子にちょっとほっとしました。

それと、ただネズミ、カエルという登場人物じゃなくて、腹

ぺこネズミですとか、それが何度も何度も腹ぺこネズミ、何とかカエルと続いて行って、次のシーンになってどんどん動物が加わっていくんですけども、そのシーンになっても腹ぺこネズミという使い方で、繰り返し繰り返し同じ言葉を使っていくところにもとても興味を持ちました。

委員長 この3冊、ほかにございますでしょうか。

では、ほかの本に行きます。ほかにございますでしょうか。高谷委員。

高谷委員 資料1の下から4番目、ひさかたチャイルドという会社の「ロングセラー絵本でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」。ロングセラーと書いてあるんですが、何と2002年に初版されて、12年たっています。64回も再版を重ねている、まさに電車好きの子ども達の心をあっという間にわしづかみにする魅力的な本です。

前から読むと海の駅から山の駅への電車の旅が楽しめ、また、後ろから読むと山の駅から海の駅へと電車の旅が楽しめるように、前からも後ろからも読めるようになっております。

季節は早春だと思います。海辺のほうは黄色い菜の花が一面に描かれて、山のほうはまだ白い深い雪の中の景色です。5回のトンネルを通り次の景色に移るのですが、トンネルの出口をかまぼこ形にちゃんと切り取ってありまして、次の風景がちょっとだけ見えるようになっているんですね。そこがとても想像力を伸ばす素敵な仕掛けだなと思いました。

また、トンネル内では電車に光が当たっているんですが、その電車の窓に幸せそうな家族の様子を描き、見ているだけでも温かな気持ちにさせてくれます。

6枚の景色では、電車の走る音を少しずつ変えて表記してあるんですね。ゴトゴトとかドカドカとか音を少しずつ変えてい

る。ここをリズムカルに読んであげるだけでも、児童にとってはとても興味深く感じてくれると思います。

以前、自分のクラスにも支援が必要な電車好きな子どもがいたんですけども、絶対間違いなくこの本には興味を持つと思います。また、電車好きの子だけじゃなく、電車の中の様子、風景など細かいところに新しい発見、新しいお話がつかれる、お話が創造できるととても優れた本だと思いました。

委員長 子どもたちの大好きな電車の本について、何かほかにございますでしょうか。佐藤優子委員。

佐藤（優）委員 私もこの絵本にとっても興味を持ちました。小さい子から大きい子まで楽しめる絵本だと思います。ページごとに「デデンドドン」、「デデドド」、「ゴー」と変わる電車の音や、トンネルを抜けるたびに変わっていく風景と季節が子どもたちの目をくぎづけにしたいと思います。

また、電車の中の人々の様子もよく見るとちゃんとドラマが繰り広げられていると思いました。お子さんが大きくなったときにそんな細かい部分もじっくり見て楽しむこともできるかと思いました。やはり、この本の一番の魅力は、前から後ろからも読めるというところが魅力的だと感じました。

委員長 電車についてはよろしいでしょうか。

それでは、ほかの本について。倉委員。

倉委員 国語・書写のところで3冊についてお話ししたいと思います。まず、偕成社の「ノントンあわぶくぶくぷぷぷう」の読み物ですが、これは大変人気のあるノントンシリーズの1冊です。内容的には、お風呂という日常生活と結びついて大変親しみやすいものであると思いました。1つ1つの言葉が短くわかりやす

い上に、リズムのある言葉で楽しみながら繰り返し読むことで、理解する力を伸ばせるのではないのでしょうか。

また、絵本ですから絵も大変かわいらしくて、登場人物のタヌキや熊、ウサギなどがお風呂の泡に隠れていて、尻尾とか耳とかが一部見えている絵があるんですけども、誰が隠れているのかを当てるというところで、きっと子どもたちの興味関心をかき立てるのでないかと思いました。

次に、あかね書房の「かたちのえほん まる・さんかく・しかくさん」ですが、丸や三角、四角を効果的に使ったかわいらしい絵が各ページに大きく載っていて、その絵を見ながらいろいろな形の言葉を覚えていけると思いました。また、そのかわいらしい絵の丸や三角、四角をなぞりながら、書き方の練習に無理なく移行することができます。丸だけのページ、三角だけのページ、また四角だけのページがそれぞれ8ページずつあって、丸のページには丸という言葉が、三角のページには三角という言葉が繰り返し繰り返したくさん出てきます。読むことを繰り返すことで、それらの言葉が自然に覚えられるようになっています。

また、本の最後のほうに絵描き歌が載っていて、これも子どもの興味関心を引く仕掛けの1つだと思いました。何回でも繰り返し練習したくなるページじゃないかなと感じています。

最後に、偕成社の「できるかな？ あたまからつまさきまで」ですが、この本は、あの「はらぺこあおむし」で有名なエリック・カールの絵本です。判も大判で、絵も非常にカラフルでありながら、構図は簡明です。ペンギンやキリン、象やゴリラ、ワニなどの動物園でおなじみの動物が動作をしているんですけども、その動作を子どもたちがまねをしているという絵が大きく見開きで描かれています。動物の動作が特徴的で、見開きに動物が1匹とまねをしている子どもが1人描かれていて、視覚的に非常にわかりやすく、思わずまねをしたくなるほ

どです。

文字も極力少な目にしながらも、「くる　くる　くるるん」
とか「ぐいーん　ぐいーん」、「ゆら　ゆら　ゆら　ゆら」な
どの擬音が効果的に書かれていて、絵を見ながら、またその動
作をしながら声に出したくなるように工夫されているなと思い
ました。動物が大好きな子どもにとっては何回も何回も読みた
くなる本だと思います。

委員長　　3冊についてお話しいただきましたが、天利委員。

天利委員　　今の3冊の中のあかね書房の「まる・さんかく・しかくさん」
について、私もいいかなと思ったので少しお話ししたいと思っ
たんですが、もともと算数で採択されていた本で、それを今度国
語でもと言われていると思うんですけども、算数で採択する
ときも、どちらかというところ、本当に丸がいっぱい出てくるとか、
三角がいっぱいとか、真ん丸丸さん、丸が大好き、丸いおうち
の丸い窓からみたいな文章がずっとつながっていて、読み聞か
せで本当に聞きながら「まる」という言葉とか、絵を見ながら
丸の概念を育てるのにとってもいいもので、形の概念の初歩的な
ところにいきたいお子さんについて、算数で採択するというよ
うなことがあったかなと思っています。

ただ、その前段の部分は、本当に国語的な要素で読み聞かせ
でいろいろ話を聞くとか、話を聞いたり絵本を見ていくという
ところでは国語でも全然オーケーなのかなと思いますので、採
択したいなと思いました。

委員長　　ほかにございますでしょうか。

それでは、ほかの図書に参ります。吉田葉子委員。

吉田（葉）委員　　私も国語・書写の中の「小学館の子ども図鑑プレNEO

楽しく遊ぶ学ぶ「こくご図鑑」についてお話ししたいと思いますが、これは、子どもたちがそれぞれの発達段階や興味や学びの場面に応じて言葉について楽しく学べる工夫があるなと思いました。

構成としては、「ぶんをつくる」、「くらしとことば」、「もじであらわす」の順で、いろいろな言葉とか文字とかが取り上げられていて、さまざまな言葉のおもしろさに出会える仕組みになっているなと思いました。

図鑑なので本自体は重いのですが、1つのテーマが見開きのページの中に一まとまりになってあらわされているので、机の上に広げてページ全体をじっくり見渡すことができるし、大判なので複数の子どもたちが一緒に見ることもできるようなものだなと思います。

内容も身近な生活や自分の体験、それから行事などとも結びつけながら、言葉の知識を広げていけるような仕組みになっているなと思います。

また、どのイラストも楽しく、それからクイズなども入っているので、授業で活用できるだけでなく、子どもたち自身が教室で興味を持って自ら出してきて、手にとって見たい、そういうような形で幅広くいろいろな言葉と出会っていけるよい本だと思いますので、ぜひ採択していただきたいと思います。

委員長 「こくご図鑑」について、高平委員、お願いいたします。

高平委員 私も同じ「こくご図鑑」ですが、言葉で教えることが難しいもの、例えば同じ言葉「飴」と「雨」とか、そういう同じ言葉や反対の言葉などは、実際言葉でこうだよと教えるのは難しいところなんですけれども、絵や写真がふんだんに使われていて、絵の表情などでとてもわかりやすくなっている工夫がありました。

あと、1つの生活の場面ですが、例えば運動会の場面なんですけれども、運動会でかけっこをしている子どもたち、応援している子どもたちが写っている場面があります。そのときにかける言葉は人それぞれで、頑張ったねとか、あと少しだったねとか、そういう人それぞれの言葉が載って表現されていました。もしかしたら、そういう言葉のやりとりをしているうちに、違った言葉が出てくるかもしれないなという期待がありました。

あと、言葉の尻尾を変えようというコーナーがありました。例えば「怒る」という言葉、「怒る」の最後の言葉を変えて「怒った」、「怒られた」などというふうに言葉がどんどん広がっていきます。そういうゲーム感覚で学べるところもいいなと思いました。

委員長 ほかにこの図鑑についてはございますでしょうか。よろしいですか。

では、ほかの図書に参ります。小泉委員。

小泉委員 私は、三省堂の「こども ひらがなとかずの絵じてん小型版」についてお話ししたいと思います。

この本は、子どもの年齢、そして発達段階に応じて、どのページからでも、どんなふうにでも使っていけるように工夫されています。まず、楽しいイラストで興味関心を持たせることができます。そして、迷路や言葉探しなどのゲームを通して学習できるように工夫されています。先生や友達と一緒にゲーム感覚で学習していくことで、遊びながら平仮名についても数についても理解を深めていくことができます。活動中はきっと会話も弾むと思いますし、そこから豊かな話し言葉の獲得につながると思います。

ページによってはお話づくりにも活用できますので、幅広く学習できる1冊、そして小型本であるということから、子ども

たちの手におさまる感覚があり、大変使いやすく、うれしい感覚の持てる1冊であると思います。

委員長 「図鑑」、「絵じてん」と続きましたが、この「絵じてん」について何かございますか。よろしいですか。

では、次の図書に参ります。本橋委員。

本橋委員 お手元の「調査書まとめ」の14ページ、資料1のところで行きますと、下から5つ目にあります福音館「こどものとも傑作集 はじめてのおつかい」。これは、絵本なんですけれども、主人公のみいちゃんという女の子が、お母さんに頼まれて赤ちゃんのミルクを買いに行くお話になっています。表紙に描かれているミルクを持った笑顔のみいちゃんが、まるで語りかけてくるように描かれているというところで、まずここに引かれるかと思います。そして、みいちゃんとの会話が生まれるものと思います。

表紙を目にするたびに、みいちゃん表情をさまざまに読み取って、読む側の語りかけというのもその都度変わってくるのかな、そういう意味では、子どもたちの想像力をかき立てるような絵本になっていると思います。

初めの見開きページでは、お母さん、赤ちゃん、みいちゃんの3人と、これからご飯の支度が始まるであろう台所の様子が描かれています。家庭の温かさと生活感が漂う絵を目にしていると、描かれている部屋の風景からさまざまな興味が膨らむものと思います。

そして、そこにある物ですとか、いる人ですとか、それから全体を包み込む場面を言葉に置きかえて学ぶこともできると思います。家を出てお店で買物をするまでの間を幾つかのエピソードをもとに構成しているので、ページごとにじっくりと絵を見ながら、お使いに行くときに気をつけることですか、お店

の人との話し方など、生活の中での必要な言語を知識として身につけることができます。読み聞かせなど子どもの実態に応じた扱い方が可能であり、とにかく愛着が持てる絵が素敵だなと強く思いました。

委員長 「はじめてのおつかい」ですが、この本について何かございますでしょうか。よろしいですか。

では、次の図書をお願いいたします。加藤優子委員。

加藤委員 私は、2冊についてお話ししたいと思います。

まず、ジュラの「かいてけしてまたかけるあいうえお」についてです。これは、本にペンで直に書き込むことができます。線を描く、文字をなぞる、そして四角の中に文字を当てはめて言葉をつくるという3つの要素で構成されています。ほのぼのとした絵の中にペンで書いて消してを繰り返し楽しむうちに、平仮名がしっかり身につくようになっていきます。

各ページに語呂がいい、リズムカルなあいうえおが紹介されています。それを歌を覚えるような感覚で自然に50音を覚えることができそうな気がいたしました。

描かれている内容も身近な言葉見つけがしやすくなっています。発達段階に応じてさまざまにお話の世界を広げながら、自分の生活と照らし合わせて単語を視覚で理解していく点がよいと思います。

また、本の最終ページに、自分の名前や誰かへのお手紙が書けるようなスペースが設けられています。これも学習の広がりが期待できそうです。

次に、もう1つですが、くもん出版の「書きかたカード アルファベット」についてお話しします。

アルファベット1文字が1枚のカードになっています。マーカーペンで繰り返しなぞって書き方を覚えるもので、番号と色

がしやすく、1人でも取り組みやすいドリルになっていると思われる。

また、中身についても工夫されていきました。同じ漢字を単に繰り返して書くというドリルではなくて、言葉として熟語としてのさまざまな使い方を提示して、自然と同じ漢字を練習させるという構成をとっていました。また、児童に字を丁寧に書かせようとする狙いも感じられました。漢字に興味のある児童にとっては有効なドリルだと思われる。

委員長 「6年生の漢字」についてのものでしたが、これについてございますか。よろしいでしょうか。

では、国語・書写について、新規図書、それから複数種目のものが全て今網羅されましたが、国語・書写について、ほかに何かご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

では、この後、その裏の15ページ、算数・数学、生活・地図・社会、生活・理科のあたりでお話をさせていただければと思います。何かございますでしょうか。上原委員。

上原委員 では、15ページ、一番上の算数・数学でお願いいたします。くもん出版で「くもんの小学ドリル算数 6年生の数・量・図形」についてお話をします。

このドリルは、簡単な問題から始めて少しずつ自然にレベルアップしていく独自のステップがとられています。効果的に学習が身につくよう構成されていると思います。子どもの理解度や状況に合わせて計算や数の概念、数量、図形関係の内容を繰り返し練習することができますので、基礎的な計算力や考える力が自然に身につくように工夫されていると感じました。

ドリル1枚裏表に問題が書かれていて、43枚あります。この分量も1年間使用するのに適切な量だと思われる。また、このドリルは1枚ずつ切離して使うことができますので、1枚

に集中して取り組むこともできます。また、順番に切外しますので、残りの量も目で見てわかりやすいですから、進み具合もわかり、子どものやる気も出てくるかと思えます。

問題のつくりも白黒印刷でとてもシンプルになっています。キャラクターが解説したり、カラー刷りであったりしないというところは、余計なことに気をとられてしまう子どもにとっても使いやすいと考えます。ぜひ採択をお願いしたいと思えます。

委員長 算数は1つだけですが、算数についてほかにございますでしょうか。よろしいですか。

では、次に行きます。生活・地図・社会あるいは生活・理科のあたりでございますでしょうか。本橋委員。

本橋委員 生活・地図・社会の上にあります学研の「はっけんずかん のりもの」。こちらは、この図書名そのもの、乗り物図鑑なんですけれども、実際手にとって見てみますと、大人でもこの乗り物図鑑に見入ってしまう、飽きることがないなと思えました。

特に、この図鑑の特徴としましては、町で見かける乗り物というくくり、暮らしを守る自動車というくくり、そして工事現場で働く自動車といったくくりで、日常生活で見かける自動車をその役割の特性に視点を置いて掲載しているところ、そして、町の様子ですとか、火事の現場、工事の現場、また、駅、空港、港の様子などの場面で乗り物がどのように働いているのかがわかるように、親しみやすい絵で構成しています。

例えばロードパッカー車、ごみ収集車ですけれども、その内部はどうなっているのかなといった疑問にも、その絵の部分を開くと、ロードパッカー車の中身がわかるように、開く絵本と言うのでしょうか、そういった工夫もなされています。

装丁もしっかりしていて、今お話ししたように、絵や写真の意図的な使い分けがきちとなされています。子どもは興味を

持って、この図鑑からさまざまな発見をすることと思います。そして、この乗り物を通して働く人の様子をつかむこともできるのではないかと感じます。この図鑑を使った指導をイメージしてみますと、さまざま多様に考えられるなというような大変興味深い図鑑でした。

委員長 これについて、生活・理科のほうでも取上げられていますが。

本橋委員 では、引き続きよろしいですか。15ページの生活・理科の4番目です。同じ図書が掲載されておりますけれども、こちらを生活・理科的な視点で見てもみますと、船ですとか飛行機、ロケット、人工衛星などの絵や写真、ちょうど子どもの興味を海ですとか空、宇宙、あるいは水や空気といった自然物につなげたり広げたりできる要素も含んでいると思います。宇宙を旅しようですとか、宇宙へ飛び出す乗り物のページは、理科的分野の特徴がよくあらわれているのではないかなと感じました。さまざまなロケットの種類ですとか人工衛星の写真など、宇宙への子どもの興味を高める上で効果的な工夫がなされていると思いました。

委員長 生活・地図・社会、生活・理科両方で取上げられている「はっけんずかん のりもの」ですが、何かございますか。

 では、次の図書に参ります。菅委員。

菅委員 同じく生活・地図・社会の中にありますフレーベル社の「フレーベル館の図鑑ナチュラ はるなつあきふゆ」について話をします。

 この本を実際に見た瞬間に、理科というのが、正直、私の感想ですが、今回は生活・地図・社会となっていますので、その視点でこの本を見させてもらいました。

自分の周りの環境が時間とともに変化する、変わっていくことを社会の移り変わりという表現をします。子どもたちがその変化に気づいていく、学校へ行く途中の環境の変化、家庭で食べるものの変化、学校内での1年間の行事の取り組み、そして春にいた動物が秋にはいない、春に咲いていた花が秋には実になるという動植物の変化などがあります。こうした変化に気づくことは、地域社会の中で生きていく子どもたちには大切なことと思います。

理科的な部分では、先ほど話しましたように、植物の成長や開花、落葉などの変化を追いかけることができます。そういう部分で「フレーベル館の図鑑ナチュラ はるなつあきふゆ」は、季節ごとの行事や暮らしなどをイラストや写真で紹介され、特に年間を通して必要な部分を使いながら継続的に使用することができ、子どもたちに興味関心を持たせることができると思います。

委員長 生活・地図・社会での「図鑑」ですが、この「図鑑」について何かございますか。

それでは、ほかの図書に参ります。加藤優子委員。

加藤委員 私は、ひかりのくにの「こどもずかんM i o 9 ひとのからだ」についてお話しいたします。

非常に内容が深く、読んでいて大変おもしろい本でした。巻頭は生活科の内容に近く、赤ちゃんの頃からの成長に触れ、自然に体のことに入っていきます。人の体だけではなく、身近な動物の体のことも取上げ、中の写真と絵、それからコンピューターグラフィックのような絵を効果的に使い分けて、ページごとにもさまざまな仕掛けが凝らされていました。キャラクターの吹き出しの言葉で子どもたちの興味関心が湧くような工夫もされています。大変楽しく学べる要素がたくさん盛り込まれて

いる本でした。

内容的には、非常に細かな難しい内容を取り扱っているんですけども、その知らせ方がおもしろく書かれていますので、この本は、昨年は保健体育で採択されているようですが、理科教材として自分の体のことを知り、また、その変化を理解したり、あるいは日常の生活習慣を身につけたりするために、小学生から中学生まで成長の段階に合わせて何度も繰り返し活用が可能だと思います。

生きるための大切なヒントを与えるというような編集側の意図も感じられるような場面もありました。ぜひ採択をお願いしたいと思います。

委員長 「ひとのからだ」について、何かございますでしょうか。佐藤優子委員。

佐藤（優）委員 私も、ひかりのくにの「ひとのからだ」に大変興味を持ちました。私自身が職業柄、看護師という仕事をしていまして、この人の体というのはどういうふうに描かれているのだろうと思って興味を持って見させていただきました。大変温かみのあるイラストで、人の体について、各部位の働きや骨や内臓、血液の流れ等についてわかりやすく紹介されている本だと思いました。また、科学的な用語や記述についても楽しみながら学習することができる本だと思います。

委員長 体についてもう1冊本がございましたが。吉田日登美委員。

吉田（日）委員 私は、生活・理科の上から2番目、金の星社の「やさしいからだのえほん1 からだのなかはどうなっているの？」についてお話をしたいと思います。

この本の絵は、とてもユーモラスでユニークです。思わず見

ていて笑みがこぼれてしまう本です。その本を使って子どもたちに体の各部位、例えば頭とか胸、足、骨などの名前や仕組みについて教えることができます。簡単な言葉の説明もついているので、子どもたちは興味関心を日常生活の中の自分の体へ発展させることができるのではないかと思います。

特に、「どうして体は温かいの?」、その温かい理由は、「血が通っているからだよ」とか、それから、「食べたものはどこへ行くの?」など、目で見て知ることができるところがいいと思います。

最後に、何でもよく食べ、元気に運動、元気もりもりと書かれていて、子どもたち一人一人のやる気につながれていると思いました。

以前は、保健、家庭で採択されていたということは、わかりやすい、子どもたちがとても興味関心を持ってこの教科書から学んでいるということがわかりますので、今年度はぜひ子どもたちの生活・理科として採択をしていただきたいと思います。

委員長 人の体の本2冊紹介がありました。ほかにございますか。
では、次の図書をお願いいたします。小泉委員。

小泉委員 私は、育成会の「自立生活ハンドブック8 食(しょく)」という本についてお話しさせていただきます。

この本は、どちらかというと、家庭・職業家庭の本という要素が前面に出ているのですが、実は生活・理科的な視点から見ても興味を持たせることができる本であると思います。

まず、本の構成についてですけれども、見開きを利用しておりまして、左のページには全面に料理のレシピ、そして右のページには紙面を均等に9分割して手順を示しています。全てが写真で構成されて、文字による説明はほとんどありません。わ

ずかに5分などと調理時間が記載されているだけですけれども、全てのレシピが大変おいしそうなお写真でありますし、そしてまた、写真だけでも作り方ははっきりとわかりやすく訴えている本です。年齢的には小学校高学年あるいは特別支援学校の中学部の子どもたちに適しているかなという本です。写真だけで見ても、やってみたい、調べてみたいというような気持ちにつながることができると思います。

本の中にある、きっと見たことがあるであろう身近な器具が実生活に必要なものであること、それから、とても便利なものであることを伝えています。また、鮮明な写真は、食材に対する好奇心も呼び起こしそうです。植物や生物的な内容、つまり、理科的なところまで発展して学習を展開できると感じます。

そして、初めに話した家庭・職業家庭の視点に戻しますと、写真を見るだけで手順がわかり、調理意欲が引き出される、調理器具を理解しやすい、主菜からデザートまでバラエティに富んだ18品の構成になっているという点から、大変使いやすい本だと思いました。

委員長 家庭科的なものを生活・理科での視点で今述べていただきましたが、あと2冊、家庭科的なものが、吉田葉子委員。

吉田(葉)委員 生活・理科のあと2冊の偕成社の「坂本廣子のひとりでクッキング」のシリーズについてお話ししたいと思います。

「朝ごはんをつくろう!」と「おべんとうをつくろう!」の2冊なんですけれども、これは、以前に家庭・職業家庭で採択されているということなんです、今回はこれを生活・理科の種目で取上げるということです。そういう視点でこの2冊を見てみますと、調理の仕方について学ぶだけでなく、朝ご飯、お弁当といったものを通して、食生活や食習慣について考えることのできる本だなと思います。

調理器具の使い方や危険性、それから後片づけのコツなどについてもイラスト入りで丁寧に解説してあって、生活していく上で必要な知識や技能を身につけることができるなと思います。子どもたちの社会的自立に向けて、家庭だけでなく、学校においても食生活の大切さを教えていくということは非常に大切なことだなと思います。

また、例えばフルーツを食べるといふことの効用についてとか、食物繊維の話、あるいは卵についての知識、また、お弁当を作るにあたってばい菌の繁殖を防ぐ工夫はこういうことができますよみたいなことが取上げられていて、身近な食べ物についての関心から理科的な興味につなげていたり、考えたりできる、そういう使い方次第でいろいろな分野に活用できる可能性のある本だと思いますので、この種目においてもぜひ採択していただければなと思います。

委員長 中林委員。

中林委員 私も今の「ひとりでクッキング」の1と7の「朝ごはんをつくらう!」、「おべんとうをつくらう!」というのはすごく興味を持って見ました。

シリーズになっているようなので、1番目に「朝ごはんをつくらう!」では、まずご飯の炊き方、それからおみそ汁のだしのとおり方など、本当に小さな男の子のイラストで、何か自分でもできそうだなというふうな感じで見っていました。和食と洋食と1種類ずつのメニューですが、きちんとやると、多分1人でもできるような構成になっていて、本当に自立に向けて利用ができるのではないかと思いました。

そして、7冊目にお弁当が来ていますけれども、お弁当ではサンドイッチからクラブハウスサンド、そぼろお弁当まで6種類作れるようになっています。シリーズをかけてお勉強してい

くと、多分本当に1カ月ぐらいのお食事は生活していけるのかなというぐらいのメニューが載っているのではないかと思いますので、自立のほうでも利用ができるのではないかと思います。

委員長 天利委員。

天利委員 生活・理科のところで、実は全部 マークなんですね。要するに、ほかのところ、家庭科とか保健でやっているのを併せて生活・理科でもやりたいということなので、その視点でちょっとお話ししたいと思うんです。

特別支援学校とか特別支援学級とかでは、教科を併せて指導することはとても多いです。だから、今日はこれから理科の授業をしますよではなくて、家庭科の授業の中で理科的な目標とかを取り入れた形になったりしますし、例えば今度調理実習をするから、今日は器具の使い方とかについて勉強しようというような形で理科の授業をやることもあると思うんですね。

中学校の理科の目標は、学習指導要領の中にも、日常生活に関係の深い機械・器具の仕組みと取扱いについての基本を学ぶという部分があると思うんですけれども、こういった中で理科の授業でやらなきゃいけないのは、洗剤と石けんがあったときに、石けんはいつ使うのか、食べ物を洗うのに石けんを使わないし、洗剤で洗うというところもきちんと学んでいく必要があるし、陶器や食器だと割れてしまう、その材質が何でできているかではなくて、そういう特性を持っていて、スプーンとかそういうものは金属でできているから気をつけようとか、危ないとか、割れてしまうから気をつけようとかということも学んでいくので、生活・理科イコール食のレシピがどうしてと思われるかもしれないんですけれども、そうやって複合的に考えていって、きちんとねらいが理科的な目標につながると思うので、

ぜひ採択をしていただければと思います。

委員長 算数・数学から生活・理科までお話ししていただきましたが、ここの算数・数学、生活・地図・社会、生活・理科のあたりで何かございますでしょうか。よろしいですか。

始まって1時間5分ほどたちました。一度ここで休憩をとりたいと思います。10分ほど休憩をとって、3時15分ちょっと過ぎぐらいから始めたいと思いますので、ちょっと休憩いたします。

午後3時07分休憩

午後3時16分再開

委員長 それでは、後半を再開いたしますが、最初に、事務局から連絡がございます。

事務局 すみません、事務局より2点訂正をお願いいたします。

1点目は、先ほど事務局坪谷から「調査書まとめ」についてお話をしているところで、発行者による供給が再び可能となった図書は○の印がついていると説明があったと思うのですが、お気づきになられた方もいらっしゃると思うんですけれども、○の印がどこにもついておりません。今年度は○の印で示される発行者による供給が再び可能となった図書はございませんので、訂正させていただきます。

2点目です。同じく「調査書まとめ」の1ページをごらんください。No.1、国語・書写のところ、3番目に「くもん出版新 719 小学ドリル国語 6年生の漢字」とあるんですが、この「719」という図書コードはコード外のものでして、「719」という数字ではございません。消しておいてください。

そして、その下の「くもん出版 新」、次が空欄になっておりまして「書きかたカード アルファベット」となっているの

ですが、ここに実はコードが入っております。「608」とつけ加えてください。

訂正については以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

では、後半、音楽・器楽、図工・美術、家庭・職業家庭の図書に移りたいと思います。何かご意見ございますでしょうか。

佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 音楽・器楽にあります2冊についてお話ししたいと思えます。

1冊目は、16ページ、一番上の教育芸術社の「4訂歌はともだち」ですけれども、これは、152曲の歌が収録されている歌集で、小学校の通常級でも広く活用されています。きれいな色刷りで親しみやすいつくりになっています上、童謡とか唱歌はもちろん、アニメーションソング等のポピュラーな歌もたくさん入ってまして、特別支援学校や特別支援学級での歌の指導には大変適しているのではないかなと考えます。

また、キャンプファイヤーや卒業式で歌う歌など、学校行事で歌われる曲も多く収録されてまして、行事の中、また、通常級との交流の場においても活用できるのではないかなと思います。

もう1冊については、4つ目のポプラ社の「おととあそぼうシリーズ33 新装版おてほんのうたがながれるどうようえほん」という長い題名の新規図書ですけれども、こちらは実際に音が出る絵本となっています。しかも、よく知られている童謡とかアニメーションソングなどが22曲も収録されていて、伴奏のみとか歌つきを選んで曲を流すこともできます。また、絵も明るく印象的で、手遊び歌の遊び方なども掲載されています。

特別支援学校で担任をしていたときに、歌とか楽曲が流れる

と、体全体でそれを表現したり、一緒に歌い出したりする児童が何人もいて、授業が大変生き生きとしたものになりました。また、音楽の授業で手遊び歌などもよく取り入れて指導を行っておりました。そのような理由から、この2冊はどちらも教科書として適しているのではないかなと思います。

委員長 高平委員。

高平委員 私は、音の出る絵本が何冊かありますが、その中から永岡書店の「リズムにあわせて、うたいながら、たたこう！たいこでドン！ドン！スペシャル」というのを紹介させていただきます。

大太鼓と小太鼓がありまして、その曲に合わせて、その曲の紹介の中に、ここは大太鼓、ここは小太鼓というマークもついています。曲のテンポもいろいろな曲がありまして、それを楽しむこと、また、大太鼓も小太鼓もボタンで音が変わりますので、その変化の楽しみ方、また、音だけではなくて、音に合わせて光が反応しますので、その光のほうに興味を持つお子さんもあるのではないかと思いました。

そのように、いろいろな方向から工夫がされていまして、興味を持つお子さんが多いのではないかと思い、紹介させていただきました。また、音量も変えられるところもいいかなと思いました。

委員長 今3冊お話がありました。この3冊について何かございますか。上原委員。

上原委員 私も今紹介がありました永岡書店の「リズムにあわせて、うたいながら、たたこう！たいこでドン！ドン！スペシャル」についてお話しさせていただきます。

今もお話がありましたけれども、子どもたちは音の出るもの

というのは大好きです。音の出る絵本や歌を聞いたりすることに夢中になっている姿をよく見ます。この曲は、曲に合わせて太鼓をたたいて楽しむサウンド絵本になっています。1曲で見開き2ページを使って、歌詞や楽譜も書かれています。歌に合ったきれいな絵も描かれていますので、見ているだけで曲の世界に引き込まれていき、想像力も育まれると思います。

私もやってみました。ゲームセンターにある太鼓のゲームのような感じでした。曲に合わせて打つのはとても楽しくて夢中になってしまいます。子どもたちも、きっと私以上に興味を持って楽しく使えるのではないかと思います。

曲も、よく知っている「アンパンマンのマーチ」ですとか、「ドラえもん」などの曲が10曲入っています。曲に合わせて歌ったり、手をたたいてリズム遊びに使ったりと、いろいろと活用できるのではないかと思います。曲も絵表示で示されていて、絵のボタンを押すと曲が流れるようになっています。

操作も大変しやすいです。実際に、ばちを両手で持って大太鼓と小太鼓をたたきますので、リズム感も養われます。合奏への導入にもなるかと思いますので、1年間を通して指導に使う教科書として適していると思います。

委員長 あと音楽・器楽についてほかにございますでしょうか。
高谷委員。

高谷委員 同じく永岡書店、一番下の「たんたんタンバリンリズムえほん」について少しお話しさせていただきます。

3番目の太鼓と似ているんですが、似ていて異なるかなり優れた教科書だと思います。何が優れているかというと、まずサイズが小さい、持ち運びが可能、たたけなくても振り回すだけで音が出るんですね。肢体が若干不自由な子とか小さい子でもふっと振り上げただけで音が出ますので、持ってたたくとかそ

うという作業ができない子も十分楽しめる。

あと、曲が短くて、すぐ次の曲に行ける。また、飽きたらすぐ押せば止まるんです。そういう意味で、太鼓のほうはちょっとわからないんですけども、太鼓と違う、優れている面がたくさんあります。

コンパクトな鈴の形をしているんですけども、この中にさせる音が何と4つも入っているんです。取っ手を握って振ると、鈴みたいにシャンシャンシャンと音が鳴るのと、よく効果音で出るキラキラキラーンというような音の2種類が入っています。

それから、たたくのはタンバリンの音と、もう1つ、パフパフっという音が入っております。だから、この音の種類が違うというのもとても楽しくて、まずしばらくは飽きないだろうなという気がします。

それから、たたく部分のレスポンスがものすごくいいんですね。ですから、ちゃんとたたいただけでもちゃんと合っ音が出ますので、楽器としての機能も十分で、教科書プラス楽器という特性も持っているかなと思います。

あと、こんなに小さいのに結構大きな音がするんです。ですから、うるさい、割とがちゃがちゃしているところでもそれを鳴らして、集中できない環境の中でもその音を聞いてそのことで楽しめると、ちょっとそういう障がいを持っているお子さんたちも落ちつけるかなというような特性があるなと。児童の成長、いろんな児童に対して多角的に使える、とても優れた本だと思いました。

委員長 音の出る絵本はもう1冊ございますが、小泉委員。

小泉委員 私は、成美堂出版の「音と光の出る絵本 たのしいどうよう」です。音の出る仕掛けがあって、自分で操作して音楽を楽しむ

ようになっております。歌のボタン、カラオケのボタン、ストップのボタンの3つあります。操作はとても簡単で、また、選曲のボタンにはその曲の絵が描かれていて、小さいけれども、とても目を引きます。そして、少しくぼんだ形状になっていて、子どもの指にちょうどよく操作しやすい、そして、材質もとてもよく滑らかで感触がよいと思いました。

そして、曲が流れると7カ所からきれいなライトが光ってとても楽しい気分になりますし、音色は何度聞いても耳に優しいです。ですので、大変長時間聞いていても疲れませんし、飽きないというような教材です。

何となくイメージすると、子どもたちが集まってきて歌い出して、中には踊り出すというようなイメージができます。曲は、「こいのぼり」、「ぞうさん」など14曲が入っておりまして、どの曲も童謡として子どもたちに学ばせたい曲でした。

あと、歌詞と楽譜が載った絵本もセットになっておりますので、また幅広く活用できるかなと思いました。

委員長 音楽・器楽について5冊お話しいただきましたが、音楽・器楽についてほかにございますでしょうか。よろしいですか。

では、次をお願いいたします。天利委員。

天利委員 図工・美術では1冊だけ新しいものが出ていますので、その紹介をしたいと思います。

「リサイクル工作68」となっていて、リサイクル用品で作る工作ということらしいんですけども、リサイクルという言葉はちょっと難しいかもしれないんですが、図工や美術で、例えば粘土なんかはふだん使わないものなので、支援の必要な子どもたちは、そのよくわからないものを使って新しく何かに作り変えるというのは壁が2つあるみたいなのところがあるんですけども、ふだんから見なれているものを使って何かを作ってみよ

うというほうがとても入りやすい、導入しやすいかなと思っています。

ペットボトルが17点あって、牛乳パックを使ったものは15点、それ以外でも台所にあるようなラップの芯だとかセロテープの芯、ガムテープの芯のように、ふだんから見なれているものを使っていろいろな簡単な工作ができるというところで、とても優れたものだなと思いました。

これについては、巻末のところに、塗る、張る、切るという部分について、丁寧に挿絵で説明がされているんですね。塗るところには、例えばのりだったり接着剤だったり、ボンド、両面テープだったらどういうふうに貼ればいいのかという説明も丁寧にされているので、最初に取り組みやすい教材だなと思いました。

委員長

図工・美術について「リサイクル工作」1冊ですが、ほかにございますでしょうか。

それでは最後です。家庭・職業家庭についてお願いいたします。菅委員。

菅委員

私は、岩崎書店の「かいかたそだてかたずかん4 やさいのうえかたそだてかた」ということで話をします。

先日、横浜の支援学校を訪問した際に、学校の授業の中に余暇の過ごし方という授業というか、そういうカリキュラムが入っていたんですね。その話を聞いたときに、この職業家庭の「かいかたそだてかたずかん4」のことが頭に浮かび、その話をしたいと思います。

家庭生活における余暇の過ごし方がわかるとは、余暇の有効な過ごし方を家庭生活に生かすことと思います。では、余暇とは何かとなりますが、自由になる時間を有効に使うことだと考えます。例えばそういう時間の中で音楽を聞いたりゲームをし

たり、園芸をしたり、飼育を楽しんだり、または買物をしたり、食事もあると思います。つまり、一緒に暮らす者同士が互いに共有する時間をつくることだと思います。

有効に使えるものの1つとして、今、園芸や調理をあげましたが、実際、園芸や調理を家庭生活に生かそうとして家庭で学ぼうとすると非常に難しい部分があると、その支援学校の先生も言っていました。そういう部分で学校の授業の中で園芸や調理を学習することで、日常の生活に考えさせることができるのではないかと思います。また、理科と関連が大きく、身近な生物として学校で栽培している植物への関心も高め、生育の中での変化、またはとれた収穫物に触れたりすることもできると思います。

そういう視点で、岩崎書店発行の「かいかたそだてかたずかん4 やさいのうえかたそだてかた」のページをぱっと開けてみると、次のページに24種類の野菜や果物が絵で紹介されています。中をあけていきますと、野菜の植え方、育て方がわかりやすいイラストで描かれていて、特に季節ごとにわかりやすくなっていて、1年間を通して学ぶことができる教科書だと、本だと思います。

委員長 食について、天利委員。

天利委員 食のもう1つ、「子どもとマスターする49の生活技術 イラスト版手のしごと」というのがあって、とてもいいので、ぜひここでも採択してほしいなと思っています。

これは、生活・地図・社会で活用されていたもので、1つ1つ自分の力でできるように簡単な動作を、箸の持ち方から、どういうふうに持つとかどういうふうに使うというのを丁寧に説明されているものなんですけれども、食生活、衣生活、住生活というのが大半で、中にはのこぎりの使い方からいろいろな

ものがあるんですけれども、どちらかというと、先ほども言ったように、箸の使い方、茶わんの洗い方、缶詰のあけ方、紐の結び方、そんなものから丁寧に学べるようになっていきます。

前回の小学校の採択のときの家庭科なんかもそうだったんですけれども、見開き2ページで1つの動作がワンカットの絵になっていて、ずっと流れになっていて、それを見ていくと、自分でもそれができるようになるというような流れでわかりやすく工夫されているので、教科書として家庭科の中のそういう部分を獲得するものとしては、とてもいいのではないかなと思いました。

委員長 「イラスト版手のしごと」について、何かほかにございますでしょうか。中林委員。

中林委員 私も日常生活に本当に大事な作業が1つ1つ工程ごとにわかりやすく説明があって、とてもわかりやすくていいなと思いました。例えばお弁当箱を包むという工程では、開いた布巾の上にお弁当が乗っていて、布巾の端を持つというのが1つの絵になっていて、その次にはバッテンをつくるという、また次の絵になっていて、本当にその絵を見ていると、自分でお弁当が包めるようになるということがわかりやすくなっていて、とてもいいなと思いました。

それから、箸を持つとかはさみを使うというところでは、悪い例もあわせてイラストで出ていましたので、はさみの持ち方なんかも危なくないようにわかりやすくなっていてとてもいいので、ぜひ利用していただければと思います。

委員長 もう1冊「自立生活ハンドブック8 食(しょく)」がありますが、これは先ほど生活・理科のところでも小泉委員が家庭・職業家庭の視点でもお話しされていたので、ここではよろしい

ですね。

今、音楽・器楽、図工・美術、家庭・職業家庭まで行きましたが、このところで何かご意見ございますでしょうか。

それでは、全体を通じて何か言い忘れたこと、言い足りなかったことがありましたら。よろしいでしょうか。

それでは、ほかに意見がないようですので、議題1「平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議はここまでとしたいと思います。

引き続き、議題2「平成27年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。平成27年度使用小学校教科用図書並びに平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の答申につきまして、何か意見はありませんでしょうか。佐藤誠委員。

佐藤（誠）委員 議題の答申についてですが、教育委員長からの諮問に各調査の観点や調査研究の観点に基づき審議し、その内容を答申するというふうにありました。第2回、第3回と教育委員の皆様にも傍聴していただき、審議をしまいましたが、審議内容が多岐にわたっております。答申の内容をまとめるというより、審議委員会の会議録を答申に当てるというのはいかがでしょうか。

委員長 答申につきまして、第2回及び第3回の会議録をもって答申とするという意見ですが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、議題2「平成27年度使用藤沢市教科用図書に関

する審議結果の答申について」は、第2回、第3回の平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の会議録をもって答申とするということにいたします。

会議録は、署名委員の吉田葉子委員と私とで確認した後、審議委員の皆様にもご覧いただき、その後、答申をするようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、議題2についての審議を終了いたします。
これで予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して委員の皆様から何かございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、事務局から何かありますでしょうか。お願いいたします。

事務局 よろしく申し上げます。

それでは、今後の予定について説明いたします。

事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、まず署名委員に確認していただきます。その後、審議委員の皆様にもご確認いただき、審議委員長から教育委員長への答申を行うこととなりますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、これをもちまして全ての審議を終了いたしましたので、第3回平成27年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員

会を閉会いたします。ありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員